

元気

まち物語

2014.11

フードバンク山口

では2000年以降にフードバンクが設立されはじめました。

フードバンク山口の発足

あなたは昨日食べた物を思い出せますか。思い出せなかった人は、食べ物があることが当たり前と思っ
ているからかもしれません。一方で、国内外を問わず、明日の食べ物に困っている人も多くいます。
こうした状況の中、日本国内では年間に約500〜800万トンの可食部分と考
えられる食品ロス(食品廃棄)があるといわれています。これは国内における年間の米収
穫量に匹敵します。この事態を何とかしなければいけないという思いで活動して
いるのが「フードバンク山口」です。

フードバンクとは

「フードバンク」とは、食品企業の製造工程で発生する規格外品や家庭で余った食品などを引き取り、福祉施設などへ無料で提供する活動や団体のことを言います。日本

良い循環を築くために

現在「フードバンク山口」は、一般家庭の食品を寄付してもらい、その食品を福祉施設を通して生活困窮者に提供する「フードドライブ」を行っています。9月27日には、フードバンク北九州ライフアゲインや山口県JICAデスクのスタ

ッフを招いて下関で講演会を行い、子どもの貧困や世界の食料事情などについて意見交換しました。講演会に参加した栄養学を専攻する大学生は、「食品ロスが多いと実感した。管理栄養士になり、食料が余った時はフードバンクに提供したい」と話していました。

「もっとないを、ありがとへつなげていきたい」と畑尾さん。これからは、フードバンクが当り前にある社会づくりを目指して、食品を提供してくれる企業の開拓や、イベント会場でのフードドライブ用ボックスの設置を働きかけていく予定です。食品ロス問題の改善には、私たち市民一人ひとりがこの問題に対する意識を高めていくことが必要不可欠です。

☆活動に参加してみませんか

関事務局 ☎090-75509-8930

- ①家庭から寄付された食品
- ②食品を生活困窮者支援を行う下関市社会福祉協議会に提供
- ③寄付された食品を施設に運ぶ畑尾さん(右)と矢代さん(左)
- ④講演会で各国の食生活について意見を交わす受講者
- ⑤講演会参加者の皆さん

1



2



3



5



4

